



1人1台のタブレット端末で広がる 子どもたちの学び

秋田市教育委員会

新しい時代を担う子どもたちには、他者と協働しながら、課題を発見し解決策を見出したり、新たなアイデアや価値を創造したりする力や、社会に出ても学び続けようとする力などをはぐくむことが必要です。

そのためには、1人1台のタブレット端末を使いこなしながら、主体的に自分で調べたり、グループで話し合ったりして考えを深め、次の学習への意欲を高めるような学びを実現することが期待されています。

互いに学び合う協働学習

学び合いを通して意見を分類・整理し考えを深めます。また、個々のタブレット端末の画面を共有して、協働で作品をつくることができます。



意見を出し合って整理



班や学級での発表・話し合い



画面を共有しての制作

学習状況に応じた個別学習

教室内で様々な情報を収集できるようになります。動画や音声など、これまでは作品やレポートに使うことが難しかった素材も扱うことができ、一人ひとりの理解度や興味・関心に応じた課題に取り組めます。



ネットでの情報収集と記録



動画や音声を活用した制作

オンラインを活用した学習

遠隔地との交流をはじめ、他の教室と接続して行う学習や、休校などの非常時に家庭と学校をつなぎ、学習を進めることができるようになります。



遠隔地との交流



家庭でのオンラインドリル

広がる
学び



1人1台のタブレット端末を活用し「学び方」の選択肢を広げることで、「わかった」「できた」を実感し「もっと学びたい」という学習意欲が高まる授業を目指します。

秋田市では、国のG I G Aスクール構想*を受け、市立小・中学校のすべての児童生徒に1人1台のタブレット端末を整備しました。これまでの本市の教育実践の積み重ねと、タブレット端末等のICT機器の活用を組み合わせることで、教育の質の向上を図り、新学習指導要領に「学びの基盤となる資質・能力」として位置付けられた情報活用能力等をはぐくみます。

※ G I G A (Global and Innovation Gateway for All) スクール構想

1人1台の情報端末と、高速大容量の通信ネットワークを一体的に整備することで、多様な子どもたちの、それぞれの個性に応じた、創造性をはぐくむ学びを実現しようとするもの。

秋田市のICT環境整備

・高速大容量インターネット回線の整備

令和2年度に、すべての市立小・中学校に高速大容量のインターネット回線を整備しました。

・ICT機器の拡充

電子黒板を市立小・中学校のすべての普通教室で使えるよう、計画的に配備を進めています。

・ICT支援員の配置

令和3年度、国の示す「4校あたり1人」という配置目標を上回る、2校に1人のICT支援員を配置しました。ICT支援員は主にタブレット端末などの保守管理、機器操作における子どもたちや教員のサポートを行います。

子どもたちが使用するタブレット端末



10.1型ディスプレイ
タッチパネル付き
着脱式キーボード付属
約1,180g（本体約610g）

インストールされている主なアプリケーション

協働学習用 コラボノートEX

・複数のタブレット端末で画面を共有し、お互いに書き込んだり、編集したりすることができます。

A I型ドリル学習用 ラインズeライブラリアドバンス

・自分で内容を選んでドリル学習を行うことができます。確認テストをしたり、学習記録の確認をしたりすることができます。

統合ソフト Microsoft Office 365

(Word, Excel, PowerPoint, Teams 等)

・文書作成や表計算、プレゼンテーションの作成ができます。Teamsはオンライン会議を行うアプリケーションです。

セキュリティ対策 Dr. WEB

・校内でも家庭でも有害なプログラムの侵入を防ぐアンチウイルスソフトです。

※学校で使用する際は、フィルタリング機能を利用しています。

1人1台タブレット端末の活用をさらに効果的にするために

教員研修の充実

すべての市立小・中学校で教員を対象としたタブレット端末の活用等の実技研修を行います。

研究推進校によるICT活用に関する研究成果や、各校での取組例を学校間で共有できるようにします。

多様な活用方法

各教科や総合的な学習の時間、特別活動に加え、朝の会など授業以外の場面でも、ICT機器の効果的な活用を模索していきます。

学校行事や校外学習など、学校外の場所で活動する場面での利活用を進めます。

学びの保障

休校等の際に、タブレット端末を自宅に持ち帰ってドリル学習を行ったり、学級担任とオンラインで交流したりするなど、様々な状況において子どもたちの学びを止めない取組について検討しています。

令和3年5月